

愛の姿



二〇二六年八月十五日 第七課

このように、いつまでも存続するものは、信仰と希望と愛と、この三つである。
このうちで最も大いなるものは、愛である。(1 コリント 13:13 , 口語訳)



それゆえ、信仰と、希望と、愛、この三つは、いつまでも残る。その中で最も大いなるものは、
愛である。(1 コリント 13:13 , 新共同訳)



コリント人への手紙第1の13章は、「愛の章」として知られています。
ここで定義されているのは、男女間の恋愛のような愛ではなく、
それよりもはるかに深い愛、すなわち神の愛です。

パウロは、私たちの心に注がれた神の愛（ロマ5:5）を、どのように
して自分たちの生活の中で表すべきかを、見事に説き明かしています。

愛は私たちのあらゆる行動の原動力であり、関わり合う人々の利益と
なることを私たちが実行する理由でもあります。



愛の姿

最も
大いなるもの

愛の特徴

不屈の愛

愛の本質

愛の
働き

愛が
しない
こと

イエス
の姿

信仰
希望
愛

最も
大いなるもの



愛の本質

だが、あなたがたは、更に大なる賜物を得ようと熱心に努めなさい。
そこで、わたしは最もすぐれた道をあなたがたに示そう。(1 コリント 12:31)



パウロは『コリントの信徒への手紙一』13章で、どのような愛を説いているのでしょうか。また、なぜその愛はあらゆる霊的賜物を凌駕するのでしょうか。(1コリ12:31-13:3)

ギリシャ語には、愛を表す言葉がいくつかあります。パウロは「アガペー」(利他的で、無条件であり、愛する相手の幸福のみを求める愛)という語を選んでいきます。これは、ヨハネが「神は愛である」(1ヨハ 4:8)と述べた際に用いたのと同じ言葉です。



このような愛に動機づけられて行使されない限り、いかなる霊的賜物も役に立ちません。実際、私たちのすべての行動や思考には、アガペーの愛が満ち溢れているべきなのです。



イエスは、不義のゆえに、この愛が冷めてしまうと私たちに警告されました(マタ24:12)。しかし、私たち自身や、家庭、あるいは教会において、そのようなことが起こらないようにしなければなりません。

これまでに、この種の愛の表現が、
それを何よりも必要としていた人に対して、
実際に力強く前向きな印象を与えたのは、
どんな時でしたか。



愛の特徴



愛の働き

愛は寛容であり、愛は情深い。また、ねたむことをしない。愛は高ぶらない、誇らない。不作法をしない、自分の利益を求めない、いらだたない、恨みをいだかない。不義を喜ばないで真理を喜ぶ。そして、すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてを耐える。(1 コリント 13:4-7)

寛容

マクロテュメロー：
気丈であること、耐え
抜くこと、忍耐強いこと

忍耐強くあり、他人の
過ちを寛容に受け止める

情け深い

クレーステウオマイ：
慈愛をもって振る舞う

それは慈悲深く、
思いやりに満ちている

真実を喜ぶ

スンカイロー：
同情を表す、祝う

真理を支持する人々と
共に喜びを分かち合う

すべてを忍ぶ

ステゴー：沈黙をもって
覆う（辛抱強く耐える）

他人の欠点を隠し、黙って
見過ごし、それを
明かさないようにする

すべてを信じる

ピステウオー：信仰を
持つ、信じる、信頼する

非難するのではなく、
むしろ疑わしきは罰せず
の原則を適用する

すべてを望む

エルピゾー：待つこと、
あるいは信頼すること

常に何か良いことが起こる
ことを期待しましょう

すべてを耐える

ヒュポメノー：抵抗する、
耐える、不屈の精神を
持つ、粘り強く続ける

苦難、試練、迫害に耐え
抜く



I コリント 13:4～7と

13:4 愛は忍耐強い。愛は情け深い。ねたまない。愛は自慢せず、高ぶらない。

13:5 礼を失せず、自分の利益を求めず、いらだたず、恨みを抱かない。

13:6 不義を喜ばず、真実を喜ぶ。 **13:7** すべてを忍び、
すべてを信じ、すべてを望み、すべてに耐える。

ガラテヤ**5:22**、**23**を比べてみて下さい。

5:22 これに対して、霊の結ぶ実はいくつかあり、喜び、平和、寛容、親切、善意、誠実、**5:23** 柔和、節制です。これらを禁じる掟はありません。

この二つの箇所には、

どのような共通点が見られますか。

私たちは、自分の生活の中で、この種の愛を
どのように示すことができるでしょうか。

愛がしないこと

ねたむことをしない。愛は
高ぶらない、誇らない。不作法
をしない、自分の利益を求め
ない、いらだたない、恨みを
いだかない。不義を喜ばないで
(1 コリント 13:4-7)



ねたまない

ゼロオー: 熱心に求める、
熱望、羨む、妬む

他の才能や美德を持つ人々
を羨ましく思うことはない

自慢しない

ペルペレウオマイ: 自慢
する、鼻にかける

他人から褒められることを
望んでいない

高ぶらない

フュシオオーō: 膨れ上がる、
傲慢になる

自分を過大評価していない

無作法をしない

アスケーモネオー:
不適切な行動をとる

社会的・道徳的な規範に
反するものではない

自分の利益を
求めない

ゼーテオー: 探し求める、
調査する

他者のためを思って、自ら
の権利を放棄する

いらだたない

パロクシュノー: (何かを)
研ぎ澄まして、苛立たせたり、
煽ったり、怒らせたりすること

短気でもなければ、過度
に神経質でもない

恨みを
いだかない

ロギゾマイ: 記帳する、
みなす、深く考える

受けた侮辱を許し、
見過ごしてくれる

不義を喜ばない

カイロー: 喜ぶ、楽しむ、
歓迎する

過ちを喜ぶのではなく、
それを正そうとする

I コリント 13:4～7 を読み直してください。

13:4 愛は忍耐強い。愛は情け深い。ねたまない。愛は自慢せず、高ぶらない。

13:5 礼を失せず、自分の利益を求めず、いらだたず、恨みを抱かない。

13:6 不義を喜ばず、真実を喜ぶ。 **13:7** すべてを忍び、すべてを信じ、
すべてを望み、すべてに耐える。

なぜパウロは、愛がする肯定的な面だけでなく、
愛がしない否定的な面にも言及しているのですか。

イエスの姿

わたしのいましめは、これである。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互に愛し合いなさい。
(ヨハネ 15:12)

彼は殴打や侮辱、
軽蔑に耐え抜いた
(マタ 27:27-31)

彼は辛抱強く
耐えている



彼は苦しんでいる
人なら誰であれ
気にかけていた

彼は親切だ



彼は明快かつ確固
たる信念をもって
真理を説いた

彼は真理を
喜びとする



彼は罪を犯した女
を裁くことなく、
彼女を赦した
(ヨハ 8:10-11)

彼はすべての
ことを耐え忍ぶ



彼はザアカイの
誠実さを信じていた
(ルカ 19:8-9)

彼はすべての
ことを信じて
いる



彼は「不可能な」
任務に向けて12人の
男たちを準備した

彼はすべての
ことを望み、
信じている



彼は飢え、拒絶、
苦痛、そして迫害
に耐え抜いた

彼はすべての
ことに耐え
忍ぶ



イエスの姿

わたしのいましめは、これである。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互に愛し合いなさい。
(ヨハネ15:12)

彼は名誉を求めず、
謙虚な人々と
親しく付き合っ
ていた

彼は羨ましく
思わない



彼は宇宙の王であっ
たにもかかわらず、
それを自慢したりは
しなかった

彼は自分を誇示
したりはしない



彼はどんなに
卑しい仕事でも
喜んで引き受けた

彼はうぬぼれ
てはいない



彼は誰に対しても
礼儀正しく、節度
を持って接した

彼は無礼な
振る舞いは
しない



彼はいつも御父の
御心を行われた
(ヨハ6:38)

彼は自分の利
益を求めない



彼らが彼を殴った
ときでさえ、彼は
礼儀正しく応じた
(ヨハ 18:22-23)

彼は怒らない



彼は、自分を十字
架につけた者たち
のために赦しを
願った

彼は悪意など
抱いていない



彼は不義なパリサ
イ人たちに厳しい
言葉を浴びせた
(マタ 23:27-28)

彼は不義を
喜ばない



イエス様は、まことの愛とは一体何なのかを、
他にどのような方法で私たちに示して
くださっているのでしょうか。

不屈の愛

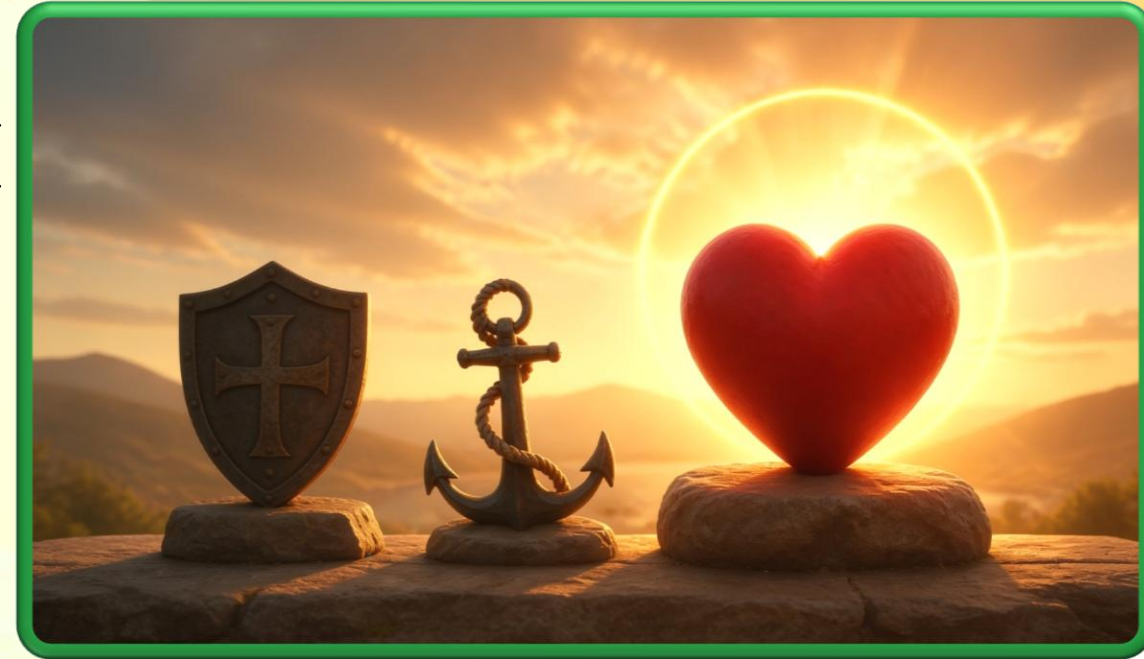


信仰・希望・愛

このように、いつまでも存続するものは、信仰と希望と愛と、この三つである。このうちで最も大いなるものは、愛である。(1 コリント 13:13)

コリントの人々は、その態度によって「愛がしないこと」をさらけ出していました。彼らは妬み、自慢し、うぬぼれ、無作法に振る舞い、利己的で、すぐに腹を立て、意地悪で、罪を容認していたのです。

霊の賜物を正しく用いるためには、彼らと同様に、パウロが教えているように、私たちはこうした欠点を捨て去り、愛という徳に満ちあふれなければなりません。またパウロは、信仰と希望という他の二つの徳にとどまるよう、私たちに勧めています。



イエスが来られるとき、罪は消え去り、私たちは主と共に永遠の命を享受することになります。そのとき、預言や異言、その他の賜物、そして信仰や希望も、もはや必要ではなくなるでしょう。しかし、愛は永遠に残ります。

(1コリ 13:8)

「神は愛である」という言葉について、
じっくり考えてみましょう。

その言葉が具体的に何を意味するのか、
私たちはどのように理解すべきなのでしょう。
また、その意味を部分的にしか理解できないと
しても、なぜこの言葉は私たちにとって
これほどまでに良い知らせとなるのでしょうか。

「神は愛である。父と子の愛は、すべての信者の属性である。神の御言葉は、神の愛が人々に伝えられるための通路である。神の真理は、知性に届くための媒体である。聖霊は、神の働きと協力して働く人間に与えられる。それは心と人格を変容させ、人が目に見えない御方を仰ぎ見ながら耐え忍ぶことを可能にする。完全な愛は、真理を信じ、聖霊を受け入れることによってのみ享受することができる。」